

# 教育長だより



鹿児島県三島村教育委員会  
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県内の小学校の教員として、鹿児島市教委主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で10年間離島教育に従事し、鹿児島県小学校長会会長も務めた。

2018年11月、全国8県に伝承されている「ナマハゲ」など10件の行事が、「来訪神：仮面・仮装の神々」として、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

来訪神とは、人々の前に異様な風体で現れて災厄を祓い豊穡をもたらすとされる神々です。これら日本の10件は、いずれも古来の民間信仰や神観念を今に伝える行事で、奇習、奇祭として知られています。10件の中の三つは鹿児島県の伝統行事で、薩摩川内市の「トシドン」、十島村の「ボゼ」、そして三島村の「メンドン」です。

大きな耳、鼻、目、ケン（一本角）をもった奇怪な風貌のメンドン。手に持った神木で観客を叩き、悪霊を祓います。「天下御免」のメンドンには、誰も逆らうことは許されません。



薩摩硫黄島のメンドン

エキゾチックでユーモラス、自由に暴れ回ります。憎めないキャラのメンドン。三島村には、それぞれの島に全く違う仮面神が伝えられています。島は、隔絶されているが故に独特の文化がそのままの形で受け継がれていますが、保存活動は危機に瀕している状況です。現在、伝統芸能継承活動に大きな役割を果たしているのは、学校や先生方、子どもたちです。

今、伝統文化を大切に思う心は育っているでしょうか。人々から忘れ去られてしまうことへの切実な危機感はあるでしょうか。現代に生きる我々にとって、時に伝統は面倒なものです。発展や進歩の妨げになることもあるかも知れません。

しかし、仮に自分の国から伝統や文化がなくなってしまうたらどうでしょう。歌も踊りも、言葉も思考も精神も、外からの頂き物、モノマネ。そこには品格も誇りもありません。何十年、何百年と継がれていく物事は、それこそ奇跡のようなものです。伝統行事に触れると「この村のご先祖様たちは只者ではないぞ」と畏敬の念が自然と湧き上がってきます。自分とは何者なのか。どこから来てどこに行くのか。原点を見失ったら未来も失います。ふるさとを誇れるから守りたいと思うのです。自分を愛せるから人も愛せるのです。昨今の社会現象となっている「鬼滅の刃」も、古来の伝説や精神文化、価値観などが、日本人の遺伝子を刺激し、誇らしく思う気持ちや感動をかきたてている面もあるような気がします。

都市化が進む一方で、過疎の村では必死に守ろうとしている人たちがいます。直接の担い手とはいかなくとも、せめて関心をもち、伝統文化を応援する態度や心情を育てていくことは国の発展に不可欠です。誇り高き文化の薫りが、地域を、そして国の価値を高めるのです。

これで私も仲間入り  
タンタタン よいよ本番  
タンタタンタタン  
弓矢おどり  
じいちゃん 父ちゃん 姉ちゃんも  
ずっとおどった弓矢おどり  
今年は 私が太鼓をたたく  
ハッピーに白いたすきをかけて  
わきに太鼓をグイッとほさみ  
おどるみんなの真ん中を  
走ってたたいてジャンプする  
うたに合わせて  
ひびけ 太鼓  
(小3児童)

